



そのまま寝れる？ ばふんっと快適キングサイズ

家族で体を寄せ合ったり、自分だけならベッド代わりにもなったり。

ただ“座るだけ”じゃないキングサイズのソファは、リビングをグッと贅沢な場所にしてくれる。



すべての原点となった、5人家族を包むトラックファニチャー

トラックファニチャーのソファに子供たちと座る平石さん(2015年4月号掲載)は、実家をリノベーションして今の家を手に入れた。その際の部屋のデザイン、使う素材などは、このソファから発想を得た。リビングに調和したソファの理想の在り方だ。

こんなソファ、良いんじゃない？



モデル名『ベンゴディ』はイタリア語で“桃源郷”的意味。座り心地はまさにそのとおりで常に浮いているような感覚。簡単に組み立てと解体ができるため搬入も容易。H81×W210×D103cm 74万6000円～【クッション除く】／アルフレックス(アルフレックスジャパン)

LIAのプロダクトデザイナーによるメタルフレームに、大阪のトラックファニチャーのミリタリーコーデュロイを装備。男が惚れる逸品。H76×W264×D92cm 6500円ル【受注生産】／スティーブン・ケン×トラックファニチャー(ジャック・オブ・オール・トレーズ)



日の光×ソファの心地良さで眠気を誘う場所

高い天井と全面窓が開放感満点なりビングに、奥行きのあるキングサイズのソファをセットした小形さん一家(2014年2月号掲載)。旦那さんが座っているオットマンもつなげて、さらなるゆとりを持たせた。この日差しの中で座っていたら、もう……。

Cafe 03

日本の住空間にマッチする コンパクト3シーター

多くの人が抱える住空間の面積問題。ソファは“大きい”が必ずしも正義ではない。とはいって、夫婦十子供のスペースは欲しい。そんな悩みを解決するソファとの付き合い方を最後に。

こんなソファ、良いんじゃない？



座り心地はゆったりと、専有面積はずっかりと。限られた空間用に開発された「イームズ ソファ コンパクト」に、アレキサンダー・ジラードがデザインしたコロラドブレイドの生地をのせた限定品。H89×W184.3×D80cm 85万1000円／ハーマンミラー(ハーマンミラーストア)

ターコイズブルーのファブリックが美しい一台は、デンマークブランドが日本の住宅向けに作ったモデル「OSAKA」。細めのアームレストがエレガントだ。座り心地も申し分なし。H80×W234×D87.5cm 29万3889円／ボーコンセプト(ボーコンセプト南青山店)



日本メーカーによる、日本人にフィットするサイズ感

無印良品の家の暮らし佐藤さんファミリー(2015年8月号掲載)が愛用するのは、やはり“無印”的3シーター。タモ材とコットンファブリックが上品で、サイズ感とともにミニマムな空間に調和している。このソファは双子の子供たちお気に入りでもある。

光と戯れ、ゆつくり時を刻む絵のよくな家

大きな三角屋根を抱き、そこから伸びる煙突。家の前の芝生では子供たちが元気に駆け回る。まるで繪本に出てきたようなこの家に住むのが、「自分たちのベイクスが守れる暮らしをしたくて、ここに、こんな家を建てたんです」と話す小形さん一家である。

以前は湘南の海側で平屋の借家に住んでいた。しかし子供も増え、6畳2間の家に限界を感じたのを機に、自分の城を持つことを決意。どうせ建てるなら理想の場所で理想の家をと思い立ち、土地探しからスタート。そして巡り合ったのが、茅ヶ崎市の山側にある、深い緑に囲まれた120坪超の土地だ。大学のキャンパスが近くにあって抜けっていて、一般的な住宅街ほどの人の気配もない。夫婦は、「いいんじゃない? 働くうち、人付き合いが得意なほうでもないし(笑)」と、理想の「場所」を決める。

そもそも究さんは広さを求めていた。自身が大工で、家のそばに木材の加工場を持ちたいと思っていたからだ。うつそうと生い茂る竹を切り開きながら、夫婦はそこに建てる理想の家について毎晩遅くまで語り合った。「外観は子供が描くような、おウチのイメージが最初からありましたね」と究さん。それを具体化すべく、自分が得意とする木組みの家を設計。北米で発展したティンバーフレームという工法を取り入れ、どつ

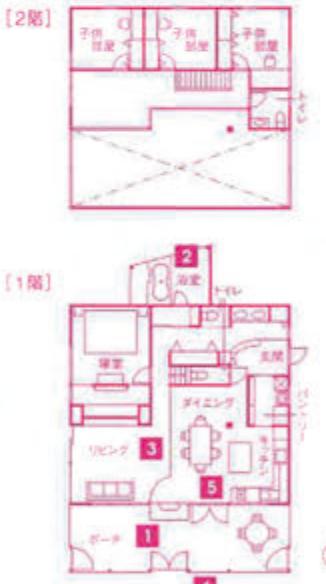
しりと安定感のある家を自力で造った。そんな家を彩るインテリアと庭は美栄子さんに一任。もともとガーデナーとして働いていたこともあってセンスは折り紙付き。結果、世のすべての女性が思わず「ステキ!」と口にするよくな、モダンデコの空間に仕上がったのだ。

「造って良かった!」と夫婦の意見が一致したのが、南面いっぱいに設けたボーチ。光がふんだんに入るよう屋根にはトップライトを並べ、冬は日光浴でボカボカと暖を取れる。また、周り巡らせた窓には網戸も張つてあるので開け放して、夏はそこを気持ちいい風が抜けていく。おかげで第二のリビングのような家族のたまり場。となりており、そこに付けたハンモックに揺られる究さんは、「ここにいると時間がゆっくり感じられて離念が薄れますね」と話す。

ウサギやキン、蛇にフクロウ。家の周囲には多くの生き物が訪れる。さらに庭には小さな池を造り、金魚やメダカを放つた。自然の循環が機能する庭を見ながら美栄子さんは、「朝は水面に映る光がとてもきれい」と目を輝かせる。

時間とともに表情を変え、あらゆる方向から降り注ぐ光。そこに身を置くと、人もまた自然の一部ということを感じ、実感する。そんな家で自分たちのペースで暮らす小形さん一家には、ゆつたりとした心地良い時間が流れている。

小形さんのOH! 家データ



■間取り

1階がLDKと主寝室に水回り、2階が子供部屋というシンプルな間取り。南側の吹き抜けで上下階がつながり、そこに面した2階廊下には共有のリラックスペースがある。1階は玄関からダイニング、キッチン、ポーチまでが土足のスペースになっている。

■建築概要

竣工: 2009年12月 構造: 木造・2階建て 地面積: 406.86m² (123坪) 建築面積: 1階100.33m² (30坪)、2階50.51m² (15坪) 蔡床面積: 150.84m² (45坪) 設計: KONARA HOUSE



2_ガラス張りで外に張り出した浴室。森を眺めながらの入浴は、まさに「森林浴」。3_大きな吹き抜けの壁面までガラス張りで、いっぱいの光で包まれるリビング。ここから自作の池も見渡せる。4_森の小道を抜けると現れる小形邸。コナラやクヌギなどの木々に覆われる。レッドシダー張りの屋根は経年変化も楽しめる。5_美栄子さんがコーディネートしたモダンデコスタイルのキッチン。黒い御影石のワークトップ、ユニークな形のタイルなど、素材使いにセンスが光る。



窓と注ぐ光に身をゆだねてリフレッシュ

窓から強打出すように付けられた南側のポーチ。そこでハンモックに揺られながらつるぐ小形さん一家。平日は違う上で忙しく働く夫婦にとって、子供たちと隣だまりの中で過ごす時間は、何にも代えがたい安らぎとなっている。

！ 情
H 家 事



あり余る光で
時の流れを変える家

自然に囲まれ、ゆったり過ごす。誰もが憧れるそんな暮らしに欠かせないのは、家に射し込む豊かな日の光だった。

永禮 賢=写真
加藤 純=文



小形 実さん(38歳)
妻・美栄子さん
長男・栄くん(7歳)
次女・桃ちゃん(6歳)

ともに湘南育ちの小形夫妻は、昔から自然が近くにある暮らしに馴染んでいた。栄くんや桃ちゃんも森で「秘密基地」を作っている。年の離れた長女の沙羅さんは(18歳)は半一人暮らし状態のため、今回は欠席。